



[トップ](#) > [2.ニュースレター](#) > 2-4.第4号 (2006年1月4日)

2-4.第4号 (2006年1月4日)

プロジェクトの進捗と計画

1.供与機材 (ハードウェア) の納入・検収

商標・意匠・特許の検索システム、IPDLシステムのためのサーバ、クライアントPC、プリンター、ネットワーク機器等の現地調達を行い、11月22日までに全ての機器の搬入を終え、検収・ランニングテストを行った。プロジェクトダイレクターのフィアイン副長官より今回納入された機器の取り扱いに関し、書面にてNOIP職員に対し「取り扱い規則」が配布された。



2.ソフトウェア技術開発

C/Pと日本人専門家による内部レビューを通じて技術指導を行い、その後システム開発委託業者 (NCS-Tin Vanh) との会議により商標・意匠・特許の検索基本システム及びIPDLシステムの要求仕様、検索データの移行等について検討を行っている。(会議はほぼ毎週開催。7月より12月末までに計35回の打合せ実施。) 2006年3月中旬に納品予定。

3.C/P本邦研修

11月5日～26日、Mr. Tuanプロジェクト・マネージャー及び情報技術課のMr. Hung職員の二名が日本特許庁において「知的財産権情報政策」の研修に参加した。当該プロジェクトでは検索システム・IPDLシステム・e-ファイリングシステム等を構築し運用するため、システム構築の重要性や活用状況など総合的な知的財産権情報政策を学ぶことによって今後のプロジェクトの実施促進につながることを期待される。

尚、これとは別に情報技術課のMs. Hien職員が10月18日よりJICA沖縄国際センターにおいてコンピュータ研修 (電子政府推進のためのネットワークスペシャリスト) を2006年3月下旬までの予定で受講中である。

4.短期専門家の活動

IPDL業務 (期間: 10月16日～29日)

C/P、審査官を対象にJPOのIPDLシステムの開発経験とその留意点、開発に於けるユーザーニーズの取り纏め、システムに必要なデータ整備、システムの維持・運用管理等について講義・指導・助言を行った。今回の活動後、公開するデータの即時性 (出願から公開までどれ位の期間で可能となるか) の公開基準について、また検索に於ける細部の調整に対して開発レビューを重ねることが重要であるとの認識が示された。

ソフト・ハード設計開発 (期間: 10月9日～12月17日)

システム専門家として今年度の第1次派遣 (4～8月) に続き第2次派遣となった。



主な活動内容は、ハードウェア調達・整備、システム開発の計画立案、システム設計・プログラミン

グ、ネットワーク設計、システム設計・プログラミングの作業監理、IPASの調査及び評価・改造 等に関する助言及び技術指導等。

5. 今後の活動計画

1. NCS-Tin Vanh社とのソフトウェア技術開発

- 商標基本検索機能（設計・プログラミング）
 - 意匠基本検索機能（設計）
 - 特許基本検索機能（設計）
 - IPDL基本機能（設計）
 - 検索機能、IPDL機能追加に伴うIPASの改造（設計・プログラミング）
 - ネットワーク改善（設計）
- 上記基本機能の納品・検収（3月15日）

2. 技術移転（ソフト開発技法、機材管理、検索データの整備 その他）

3. システム短期専門家によるソフト・ハード設計に関する助言、技術指導

4. C/P本邦研修

- Ms. Hien 沖縄集団研修（コンピュータ）。2005年10月18日～2006年3月23日

5. C/P IT研修（ハノイ）

C/PのIT技術専門能力及びマネジメント能力の向上を目的に次のコースに参加を予定。

1. Managing a Microsoft Windows Server 2003 Environment 1名
2. Oracle Database 10g 2名
3. Project Administration Training 2名

その他

NOIP増設新庁舎完成、引越し進む

ベトナム知的財産権庁（NOIP）の現庁舎は1988年に完成したが、年々増加する商標・意匠・特許等の出願に対応するため漸次増員が図られ、当初の建屋では手狭になっていた（現在、職員数約200名）。

本年6月、4階建ての増設新庁舎が完成し、先ず意匠審査部門が移転を開始。その後、商標審査部門（第1課・2課）及び研修センターが10月下旬

に移転終了し総勢約40名が新庁舎の住人となった。現在、特許審査部門の移転計画も浮上しているがまだ正式決定には至っていない。

